

平成31年1月23日

南の風第85回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会

～ 女子決勝特集号V ～

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

特集号IVの続きです。

勝敗を左右したポイントについてです。

敗れたトヨタですが、3Pシュートが3Qの後半まで1本も決まらなかったは大誤算でした。決勝でのトヨタの3Pシュートは、長岡4-0、エプリン3-0、三好9-1、安間5-1、栗原1-0、山本1-0、トータル23-2確率8.7%という、考えられない低さでした。因みに準決勝のデンソー戦はトータル22-7確率32%でした。(長岡の6-4の数字が光りました)

観戦していて、3Pシュートを打つタイミングが悪いということはなかったと思います。今年からガルスシアコーチになって、ピック&ロールから攻めが多くなりました。この決勝戦でもスクリーンを使ったり、キックしたりして3Pを打つ場面はかなり見られました。チームとしてどう攻め、どの場面で3Pシュートを打つのかという戦術は観ていて伝わってきました。問題はやはり、『決め切るフィニッシュの精度』だといえます。3Pシューターは、自分の役割として、入る、入らないに拘わらず打たざるを得ないのです。躊躇してはいけません。シューターの宿命なのです。そして精度を上げるためには、集中した練習と、『ゲームでいかに平常心で踏ん切りよく打つか』以外にありません。

勝利したJXの決勝での3Pシュートの確率を見ます。岡本8-4、宮澤8-2、石原3-2、トータル19-8、42.1%でした。3Pシュートだけみても差は歴然でした。

続いて2Pシュートの確率を見ます。トヨタが48-24、50%、JXが55-27。49.1%でほぼ互角でした。トヨタで特に目を引いたのはエプリン選手でした。決勝では3Pシュートを沈めることはできませんでしたが、ペイントでのステップやターンシュート、ミドルシュートの確率もよくトヨタのリーディングスコアラーとして19点を上げる活躍でした。もう1人長岡選手もシュートの決定率がアップしました。元々ペイントエリアでのフィジカルプレイが強い選手ですが、今年になってシュートの精度が格段にアップしました。また、今期3Pシュートにもチャレンジし結果が出始めています。この大会の準決勝デンソー戦では、3Pシュートが6-4で66.7%の確率でした。決勝のJX戦ではエプリン選手に続く12点を上げました。

但し、ゲーム全体を通して見るとトヨタのシュートには『むら』がありました。ここで決めなければという場面で落とすことや得点できない時間帯が続くことがありました。もちろんJXのディフェンスがよかったことかもしれませんが、シュート決定率をアップすることがトヨタの課題となります。

最後です。JXの強さは、オンザコートの5人《スターターからシックスマン(渡嘉敷、宮澤、岡本、藤岡、梅沢、吉田)》が安定して得点することができることです。これは相手に取っては、とても厄介なことです。言うまでもなくディフェンスで的が絞れないからです。ディフェンスは5人の選手のプレイを抑えることはほぼ不可能なのです。

JXは皇后杯を手に入れました。今後2冠目となるWリーグも制するのか、それとも他のチームが待ったをかけるのか、Wリーグの後半戦が楽しみです。